

## 「食べたいお米」ってどんなお米？（第4学年）

奈良市立済美小学校 吉田 剛

### 1 ESDを生かした授業づくり

(1) 単元名 「食べたいお米」ってどんなお米？ 小学校 第4学年

(2) 単元の概要

本実践は、東日本大震災・原発事故で大きな被害を受けた福島県の稲作を題材にし、「安全な食」の大切さを知り、身の回りの食の安全性に関心をもつ児童の育成を目指している。今回は福島県の中でも、特に来年度から米の作付けを目指し動き始めている双葉郡檜葉町を切り口に食の安全について考えていきたい。

福島県双葉郡檜葉町は、海沿いの地方である「浜通り」に位置している。2011年3月11日の東日本大震災では震度6強の揺れと高さ10メートルの津波が町を襲い、町は大きな被害を被った。この時、多くの田畑が海水による被害を受けている。翌日、震災に伴う福島第一原発事故により、当時7800人いた町民ほぼ全員が避難を余儀なくされた。震災以前、町は多くの農家が稲作を営んでいた。水田はおよそ650ヘクタール、古くは江戸時代から開墾されてきた田で、うち410ヘクタールでコシヒカリなどが栽培されていた。しかし、原発事故の警戒区域に指定されたことにより、町で農業を営むことはできなくなり、田は荒れ果てた。

それでも営農再開を目標に、町は2012年から水稻実証田を設けた。そして、データ収集するための実証栽培を開始した(福島県では、全県において収穫した米の全量全袋検査を行い、放射性セシウム濃度100Bq/kgの安全基準値を下回らなければ出荷できないとしている)。検査では基準値を下回ることができ、2015年11月9日には実証田で収穫された新米が安倍首相に届けられ、全国ニュースでも報じられた。町は来年度からの作付け、出荷を目標としており、町は営農再開に向けて着実に前進しているように見える。

一方、町全体の土地に目を向けてみると、いたる所に黒い袋が並んでいるのが目に付く。これは「フレコンバッグ」と呼ばれるもので、中身は除染で削られた表土等の放射性廃棄物である。このフレコンバッグと実証田は道路を挟んで隣り合っている場所もあり、農家の中には放射性廃棄物の仮置き場として自分の田を国に貸している方もいる。そのため、檜葉町での営農再開には悲観的な農家も多い。町が農業者831人に向け意向調査をしたところ、来年の米作付けを希望した農家は全町で20人、面積はおよそ20ヘクタールのみで留まった。「作っても喜んで食べてもらえないだろう」「(放射性廃棄物の)仮置き場の前では作る気にもならない」という考えをもつ農家の方も多し。事故以前の生活を望んではいるものの、放射能汚染や風評被害によって、以前のように故郷で作った米が売れない、喜んでもらえないという悩みも抱えている。



福島県では米の生産・出荷のために安全性を高めようと努力する農家があり、その米を心待ちにする消費者がいる。一方で、放射能で汚れた土地で稲作することに悲観的な農家や、安全性を疑

い福島産の米を買い控える消費者もいる。さらに福島県から離れた土地に住み、この問題に関心をもたない消費者もいる。このように、福島県産の米を巡って様々な立場の人の思いが交錯していると言える（多様性）。また、安全性のために様々な工夫や努力をしている方々がいるのは米に限らず、全ての食品について同じだと言える（公平性）。食品のラベルやパッケージから身の回りの食品の安全性について調べることで、消費者の一人として食の安全性を自分事として捉え、関心を高められるようにしたい（責任性）。

(3)ESDの視点の明確化：【持続可能な社会づくりの構成概念】

構成概念Ⅰ 多様性…福島県産の米の安全性は、生産者や消費者など様々な立場から考えることができるということ。

構成概念Ⅱ 公平性…安全な食品のために様々な努力や工夫がされているのは、米だけではなく、どの食品についても言えるということ。

構成概念Ⅵ 責任性…身の回りの食品の安全性を調べる活動を通して、自分も消費者の一人であることを実感し、食の安全性を自分事として捉えられるということ。

2. ESDの視点を生かした授業の実際

(1)単元の目標(重視する能力・態度)

《参加》米の安全性を高めるための工夫や努力、身の回りの食品の安全性を進んで知ろうとする。

【関心・意欲・態度】

《多面》様々な視点から米（食）の安全性について考えることができる。 【思考・判断・表現】

《情報分析》食の安全に関わる資料を目的に応じて収集・整理することができる。 【技能】

《食の安全》消費者が食べたいと思う食品には、安全であることも大切だということが分かる。

【知識・理解】

(2)評価基準(3)単元の計画(全5時間)

参加 関心・意欲・態度	多面 思考・判断・表現	情報分析 技能	食の安全について 知識・理解
① 米の安全性を高めるための工夫や努力を知ろうとしている。 ② 身の回りの食品の安全性を進んで調べようとしている。	① 様々な立場から米（食）の安全性について 考えている。	① 食の安全に関わる資料を目的に応じて収集・整理している。	① 消費者が食べたい と思う食品には、安 全性も大切だとい うこ ことが分かる。

時	主な学習活動	◇教師の支援 ◆主な評価
1 2	<p>1. 首相が福島米を食べる写真を見て、みんなが「食べたいお米」とは、どんな米か交流する。</p> <div data-bbox="352 465 1259 533" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>普通にお米を食べていることが、どうしてニュースになったのだろう。</p> </div> <p>2. 福島県で収穫された米であることを知る。</p> <p>3. 東日本大震災と原発事故について、家の人に聞き取り調査をする。</p> <p>4. 調べてきたことを交流する。</p> <p>5. 「小学生のための放射線副読本」を読んで、放射能について調べる。</p> <p>6. 1の写真がどうしてニュースになったのか考える。</p>	<p>◇ 福島米であることは伝えず、自由に発言させるようにする。</p> <p>◇ 写真の出来事は全国ニュースで大きく報道されたことを伝える。</p> <p>◇ 米が収穫された福島県は、東日本大震災の被災地であることを紹介する。</p> <p>◇ 震災当時の様子や思いだけでなく、福島県産のお米についてどう思うかも聞き取り調査をさせるようにする。</p> <p>◇ 福島県は震災による被害だけでなく、原発事故による放射能汚染があったことにも気付かせる。</p> <p>◇ 原発事故により、風評被害や差別があったことに気付かせる。</p> <p>◇ 首相は風評被害を払拭する意味合いもあって米を食べたから報道されたことに気付かせる。</p> <p>◇ 意見交流の中で、みんなが「食べたいお米」には、安全性も大切だということに気付かせる。</p> <p>◆ 消費者が食べたいと思う食品には、安全性も大切だということが分かる。 《食の安全について》</p>
3	<p>1. 福島県檜葉町の写真を見る。</p> <div data-bbox="220 1742 639 2056" style="display: inline-block; vertical-align: top;">  </div> <div data-bbox="667 1742 1086 2056" style="display: inline-block; vertical-align: top;">  </div>	<p>◇ 福島県檜葉町では試験的に作付けを行っていること、黒い袋の中身は放射性廃棄物であること、この2箇所は道路1本を隔てて隣り合っていることを伝える。</p>

福島県産のお米は、自分なら「食べたいお米」だろうか。

2. 福島県の農家の安全に対する取組と、米作りに対する思いを知る。

- 営農再開に向けて努力をしている農家の方がいる。
- 福島の農家を支えると共に、安全でおいしい米を食べようと福島米を消費者がいる。
  - ・機能性表示
  - ・アレルギー表示

◇ 新聞記事やパンフレット、インターネット上の資料を提示し、農家の方は故郷で稲作をすることや、米の安全性にこだわって米作りをしていることに気付かせる。

◆ 米の安全性を高めるための工夫や努力を知ろうとしている。 《参加》

◇ 意見交流を通して、自分も食品を選ぶ消費者の一人であることを実感させる。

◆ 様々な立場から米（食）の安全性について考えている。 《多面》

◇ 次時の学習に向け、自宅から食品のラベル（パッケージ）を探し持参するように伝える。

3. 福島県産の米は、自分なら「食べたいお米」か交流する。

4  
5

ラベルから、身の回りの食品の「安全」を調べよう。

1. 持ってきたラベルから安全に関わる表記を見つける。

- ・栄養成分表示
- ・機能性表示
- ・アレルギー表示
- ・調理法や注意点 等

◇ グループごとにラベルやパッケージを切って項目ごとに分類させ、その中から食の安全に関わる部分を見つけさせる。

◆ 食の安全に関わる資料を目的に応じて収集・整理している。 《情報分析》

◆ 身の回りの食品の安全性を進んで調べようとしている。 《参加》

2. 気付いたことを全体で交流する。

◇ 具体的な表記だけではなく、数値等からも安全性が読み取れることに気付かせる。

◆ 身の回りの食品も、安全性を大切にしていることが分かる。 《食の安全について》

3. 学習を通して分かったことや考えたことを振り返る。